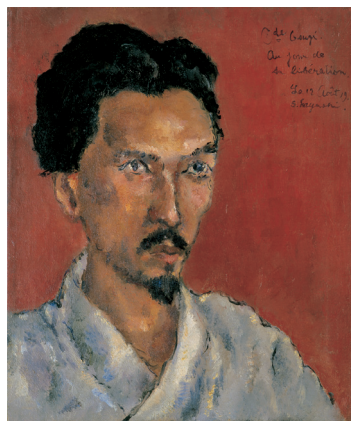


伝説の洋画家たち 二科100年展

2015年9月12日(土)～11月1日(日)



岸田劉生《初夏の小路》
1917年 第4回二科展 下関市立美術館



林 倭衛《出獄の日のO氏》
1919年 第6回二科展 長野県信濃美術館

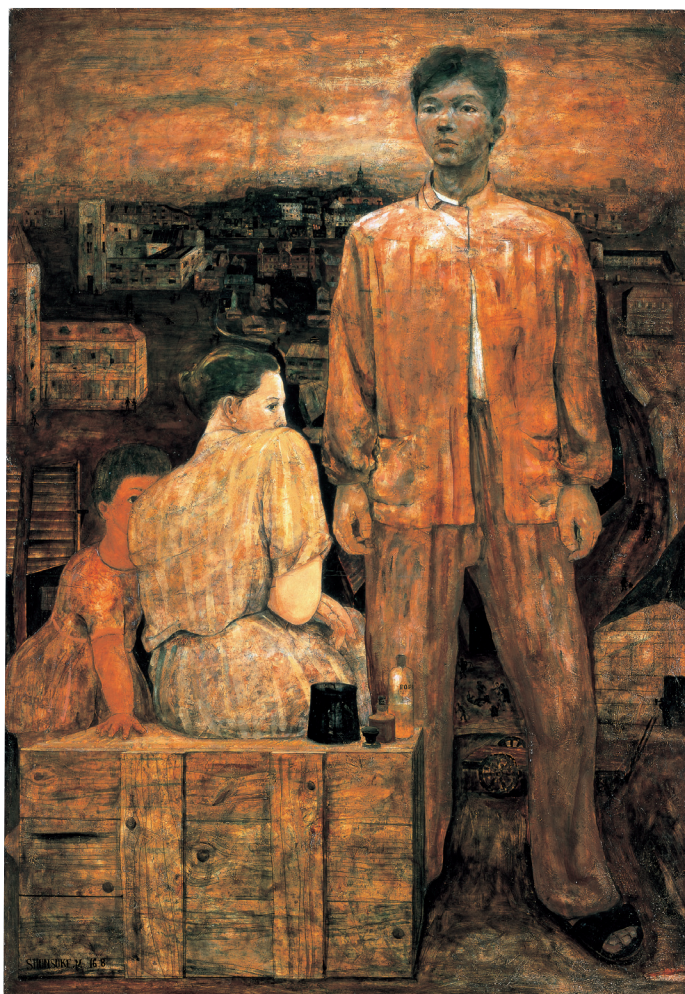
「在野の公募展」といういささか使い古された定冠詞で紹介されることの多い二科展が、この秋に第100回を迎えます。国営の官展が存在しない現在にあって、それでも在野の公募展の雄として二科展が存続し続ける理由とは一体何なのでしょう。120点を超す歴史的な名画が一堂に会する今回の特別展「伝説の洋画家たち 二科100年展」は、その謎を解き明かすひとつの鍵となるかもしれません。

林倭衛《出獄の日のO氏》は、かの無政府主義者・大杉栄をモデルとした作品です。釈放されたその日に大杉を訪ねて一気に描き上げたといわれる本作は、二科展へ出品され、見事入選しますが、それからが大変でした。釈放されたばかりの「政治思想犯」を描くとは何事か。秩序紊乱の恐れがあるため展示はまかりならぬ、という当局のお達しです。

しかし、そこは「在野の雄」二科会のこと。警察当局から裸体画への言いがかりをあしらってきた経験もあり、この作品も展示することに一旦は決めるのですが、マスコミに取り上げられてちょっとしたスキャンダルとなってしまったこともあり、結局は混乱を恐れ作者林自身が展示を取り下げるというかたちで決着を見ました。「大正デモクラシー」真っ只中、芸術と権力のはざまで起きた事件ですが、実は21世紀となった今日であっても表現の自由が侵される危険性が常に潜んでいることを本作は気づかせてくれるかもしれません。さて、そうした背景を抜きにすると、皆さんの眼に本作品はどのように映るでしょうか。やはり、言い知れぬ迫力を感じるでしょうか。それとも…。

あるいは、100号の大作、松本竣介《画家の像》の前でみなさんは何を思うでしょうか。何かに立ち向かうようにして立つのが画家自身であることを知らずとも、何かしら決意めいた重いものを感じるでしょうか、それとも人物と背景のスケール感の違いにたじろぎ、違和感を覚えるでしょうか。

最後に二科賞受賞作、岸田劉生《初夏の小路》をご覧ください。作者の鶴沼での療養生活についての知識がなくとも本作から潮の香りを運ぶさわやかな湘南の風を感じることができるでしょうか。



松本竣介《画家の像》
1941年 第28回二科展 宮城県美術館

絵画の見方は自由であってしかるべきですが、名画が名画と呼ばれる理由、二科展がこれまで存続した理由は今回展示する作品を前にすればおのずと明らかになる、とひそやかな確信があります。「伝説の洋画家たち 二科100年展」は日本の洋画が歩んできた一つの歴史を振り返る絶好の機会です。100年分の芸術の秋を一举にご堪能ください。

(児島大輔)

◆関連イベント

【記念講演会】

- ①9月19日(土)13:30～15:00「二科100年」
当館館長 篠 雅廣
- ②9月27日(日)13:30～15:00「二科会彫刻部」
二科会常務理事 吉野 毅 氏×二科会理事 小田信夫 氏
- ③10月11日(日)13:30～15:00「二科会絵画部」
二科会理事長 田中 良 氏×二科会常務理事 伊庭新太郎 氏
- ④10月17日(土)13:30～15:00「二科・大阪・植重」
当館館長 篠 雅廣

【見所トーク】

- ①当館学芸員による見所解説
①9月13日(日) ②10月3日(土) ③10月10日(土) ④10月24日(土)
各日13:30～14:00
- ②二科会関西支部長の尾崎功氏はじめ絵画部会員による見所解説
10月27日(火)～11月1日(日) 連日13:30～14:00